

[実践的研究]

インターバル方式の日程による「地域活動プラン」の開発と実践 ー地域実践を課した古賀市における区長レベルの人材養成ー

古市 勝也¹⁾, ブストス・ナサリオ²⁾
横尾 勝博³⁾, 力丸 宏昭⁴⁾, 村山 隆一⁵⁾

A practical research on the development of a community activities plan based on the interval-schedule model -The training of guard officers in Koga City-

Katsuya FURUICHI¹⁾, Nazario BUSTOS²⁾,
Katsuhiko YOKOO³⁾, Hiroaki RIKIMARU⁴⁾, and Ryuichi MURAYAMA⁵⁾

Abstract

This paper reports on the second year of personnel training at Koga City. This year, it is intended to improve last year results by adding two important points. First, is the inclusion of the training of future top leaders, namely Guard Officers, and second, the inclusion of practical activities, which were not considered last year.

We intended to ①increase the number of people who understand the role of the Guard Officers as community leaders and ②to present activities which really relate to community life.

With this purpose, all the participants to this course should return to their communities, put the activities in practice, hear the opinion of the people in their communities about it and finally return to the course by next year. This is what we called the plan based on the intervals schedule program.

はじめに

古賀市の地域人材養成2年目の実践的・実証的継続研究である。筆者が地域づくりリーダー養成講座のコーディネーターとして古賀市の行政担当者（横尾・力丸・村山）と実証的に共同研究した2年目の成果として論考したものである。また、ブストスとは事業分析に当たり共同研究した。

今年の特色は、昨年のリーダー養成講座の反省に立っ

て改良を加えてプログラムを開発し実施した点にある。昨年の「地域リーダー養成講座」の一番の反省点は、「受講生は講座は楽しく満足していた」「しかし、実践活動へと発展した人は少なかった」であった。今年はどうするかが課題になった。そこで、今年は、地域での実践活動につながる講座の開発に重点を置いたのである。そこで、「①地域活動の核になる区長レベルの内容とする（地区プランづくり）、②活動実践に結びつく内容にする（アクションプランづくり）。」ことを

1) 九州共立大学スポーツ学部

2) 桜花学園大学生涯学習センター

3), 4), 5) 古賀市教育委員会社会教育課

1) Kyushu Kyoritsu University Faculty of Sports Science

2) Lifelong Learning Research Center. OHKA GAKUEN

3), 4), 5) Department of social education, Board of education, Koga City

主眼とした。そのためには、「講座」を受けたら地域に帰り、地域の人と集い、地域の意見を入れて次の「講座」に参加する。この繰り返しを行うプログラム＝インターバル方式の日程にした。常に地域を意識したプログラム、地域の声を反映して、すぐ地域活動につながるようにしたのである。

1. 講座開発の背景

(1) 開発研究の動機 ―なぜ、インターバル方式か―

地域の人々を対象にした人材育成講座等は、土曜日・日曜日や夜間を活用して集中的に実施するところが多い。この方式も仕事を持った忙しい地域社会人の人材育成方法としては、先人の開発した大事な講座開設の手法である。しかし、講座終了後の反省に、「実践につながらない」「講座で終わっている」「実践につながる講座の開発が必要である」との声を聞く。そこで、導入したのが「講義と演習」に「地域での活動・実践」を入れて、また、2～3週間ごとに「講義・演習」を実施し、また、地域に帰って「活動実践」を入れていくインターバル方式である。すなわち「講義・演習」と「活動・実践」を数回繰り返しながら人材育成講座を運営する方法の開発と実践の実証的研究である。

(2) 講座開発の手法と手順

地域づくりリーダー養成コーディネーターを引き受けて強く思うことがある。それは、地域の行政課題を解決するための講座開発には、第一に行政担当者の我が地域を思う情熱が重要である。すなわち担当者の「熱き思い」が講座開発には必要不可欠であるということである。

まず、誰が誰と開発したかである。筆者と古賀市教育委員会の担当者（力丸・村山等）である。次に、開発打ち合わせの場所とスタート時期である。講座開発は担当者と本学（九州共立大学）と古賀市教育委員会で協議し、約4ヶ月前からスタートした。また、相互にメールを活用して開発したプログラムの確認を行った。さらに、実施に当たってもこの講座のコーディネーターである筆者と担当者が毎回打ち合わせ・確認し、実施した。

講座内容の検討では、まず、昨年の講座の反省を徹底に行った。その結論は、「講座への参加者の評価は良い。楽しく参加している。ためになったと評価している人が多い。」しかし「地域に帰って実践に結びついた人は少ない」「地域の活動へ参加する人はいるが、地域活動の中心として企画・実施するまで到達

しない」と言うことが指摘された。そこで、次のような開発の実際になっていくのである。

2. 講座開発の特色

(1) 「コアリーダー養成コース」と「アクションリーダー養成コース」の二本立て

前年の反省から、地域リーダー養成講座を受講して「地域で広がらない・実践に結びつかないのはなぜか」を考察した。地域活動の推進・拡大には、地域の活動の核になる区長や公民館長の協力が必要である。すなわち、「区長・公民館長レベルの視点と関係組織を動かすネットワークづくりが必要である」と言うことである。この区長レベルの人を地域づくりへと導く必要があるということである。そこで、「さまざまな地域課題や住民ニーズを総合的に考えながら、校区コミュニティ組織運営の舵取りを担う「コアリーダー」の育成をめざす。」ことを目的に、「地区プラン」をつくり、それを住民に示し、実践活動に結びつく「コアリーダー養成コース」を開発することにした。

さらに、「区長レベル」が活性化するには区長や公民館長に協力する実働部隊が必要であり、その養成が重要である。この実働部隊の養成が「アクションリーダー養成コース」の開発であり「地域活動に必要な現状や課題の分析、また計画づくりから実践までのポイントを学びながら企画実践を行い、今後、さまざまな分野で実践活動を担う「アクションリーダー」の育成をめざすことになったのである。

(2) 金曜日の夜を活用した「実践を入れながらのインターバル」方式の日程

インターバルトレーニングとは、高強度運動と不完全休息（低強度運動）を交互に反復して行うことにより、持久力を向上させるトレーニングである。

短期間で集中的に講座を実施する集中講座方式から、講座と講座の間に約2週間の地域での日常活動を入れて、地域での「実践活動」と「養成講座」を交互に実施することにより、強度の理論と日常の実践を反復して行い、理論武装された実践力を向上させる方式である。この方式によって、地域づくりのリーダーとして資質を高めることができると考えたのである。また、金曜日の夜に実施したのは、社会人であり、勤めもある、土曜前の「花の金曜日」を地域づくり学習に！と考えたのである。そして、実践を入れながらのインターバル方式の日程にしたのは、先に述べたとおり、地域

の人々との意見交換により、地域での活動がスムーズに行くことを願い・試行したものである。

(3) なぜ、地域共働課と連携に努力したか ―両課の担当者の情熱―

行政が行う人材養成で配慮することがある。それは、自分の市町村のマスタープランを踏まえることである。古賀市が人づくりに「何を求めているか、その背景は何か」等については、筆者らの著『古賀市における地域活性化を目指した地域リーダー養成の開発の実際に関する研究』九州共立大学スポーツ学部研究紀要第1号2007¹⁾を参考していただきたい。ここで強調したいのは、古賀市がまちづくりの主管課として市長部局に位置づけた「市民共働課」との連携である。この講座のコーディネーターである筆者が特に呼びかけたのは、「地域づくりは、まちづくり、まちづくりをするのが古賀市民である」「行政は人づくり（育成）の専門部局である「教育委員会」と「まちづくりの主管課・専門課である首長部局の市民共働課と協力・共催で実施することが望ましい」ということであった。そこで、この講座の第1回に市民共働課による講義「共働のまちづくりに学ぶ」を導入したのである。さらに、この講座の全過程に市民共働課の職員も張り付き協力いただいて心強かった。ここでも、地域人材の育成は、行政担当者の情熱であることを確認した。更なる連携と協働に期待したい。まさに、地域人材育成は「育て、見守り・手放し、自立へ」の段階的支援である。

(4) 講師選定への配慮

講師選定については、全体のプログラムコーディネーターとして筆者が、コアリーダー養成コースには恵良章治先生に、アクションリーダー養成コースには池田茂樹先生をお願いした。恵良章治先生は福岡県立社会教育総合センターで、平成18年度は「社会教育専門講座」を、平成19年度は「社会教育行政相談」等を担当した社会教育行政のベテランである。池田茂樹先生はまちづくり等のプランニングプロデューサーとして、多くの市町村のまちづくりを手がけた人である。

(5) グループ形成への配慮 ―地区単位による編成に拘る―

コアグループでの演習に当たって、最初に行った班編成（グループ編成）での配慮は、地区単位でグループ形成することに拘（こだわ）った。なぜなら、研修終了後の地域での実践活動に結び付けたかったからで

ある。

(6) 講座の目的と手順

この講座の目指す主な流れは何か。それは次の手順にした。「①地域診断による課題の発掘・発見、②課題・問題点の掘り下げと分析（どういう所が問題か）、③課題・問題点の解決の時系列化「すぐできること、検討すればできること、長期的方策が必要なこと」等に分類、④解決課題・問題点のテーマの絞込み、⑤地区プラン作成である。

3. 開発した講座のプログラム

(1) 『地域づくりコアリーダー養成講座』プログラム（案の段階）

＜目的＞さまざまな地域課題や住民ニーズを総合的に考えながら、校区コミュニティ組織運営の舵取りを担う「コアリーダー」の育成をめざす。（表-1参照）

表-1：『地域づくりコアリーダー養成講座』プログラム（案の段階）

日 程	学習テーマ	学習方法・形態	講師・学習支援者
第1回 8/10(金) 【大会議室】 19:00～21:00	《開講式》 ○いま地域づくりに求められるもの ～まちづくりの視点～(仮) ○共働のまちづくりを学ぶ ○オリエンテーション ～分科会編成、研修目標の確認～	・講演 ・講義、説明	・九州共立大学 古市勝也教授 ・市民共働課職員
第2回 8/24(金) 【大会議室】 19:00～21:00	○あなたの地域の診断書づくり	・演習、講義 ・フィールドワーク	・九州共立大学 古市勝也教授
第3回 9/14(金) 【大会議室】 19:00～21:00	○校区プランづくり①		・古市コーディネーター ・センター 恵良社会教育主事
第4回 10/12(金) 【大会議室】 19:00～21:00	○校区プランづくり②		・古市コーディネーター ・社教センター 恵良社会教育主事
第5回 11/9(金) 【大会議室】 19:00～21:00	○校区プランづくり③ ○コース発表 ＊予選を兼ねて		・古市コーディネーター ・社教センター 恵良社会教育主事
第6回 11/30(金) 【大会議室】 19:00～21:00	○コース発表 ○研修を終えて ○学びの仲間と地域に出よう(仮) 《閉講式》	・研修報告 ・研修総評 ・講演	・コース代表 ・古市勝也教授

(2) コース：『地域づくりアクションリーダー養成講座』プログラム（案の段階）

＜目的＞地域活動に必要な現状や課題の分析、また計画づくりから実践までのポイントを学びながら企画実践を行い、今後、さまざまな分野で実践活動を担う「アクションリーダー」の育成をめざす。（表-2参照）

表-2:『地域づくりアクションリーダー養成講座』プログラム(案の段階)

日 程	学習テーマ	学習方法・形態	講師・学習支援者
第1回 8/10(金) 【大会議室】 19:00～21:00	《開講式》 ○いま地域づくりに求められるもの ～まちづくりの視点～(仮) ○共働のまちづくりを学ぶ ○オリエンテーション ～研修内容とコース説明～	・講演 ・講義、説明 ・コース別説明	・九州共立大学 古市勝也教授 ・市民共働課職員
第2回 8/24(金) 【大会議室】 19:00～21:00	○実践プラン作成の視点・要点 ～うまくいくプラン作成法～ ○実践テーマ決め(グループ別)	・演習、講義 ・グループ協議	・イケダオフィス・ピオ 代表池田茂樹先生
第3回 9/14(金) 【研304】 19:00～21:00	○実践プランをつくろう① ～広報紙、募集チラシの検証～		・イケダオフィス・ピオ 代表池田茂樹先生
第4回 10/12(金) 【研304】 19:00～21:00	○実践プランをつくろう② ～グループ別企画発表～		・イケダオフィス・ピオ 代表池田茂樹先生
グループ設定日 【各エリア】	○グループミニ実践 ～地域でプランを実践しよう～		各グループ実践
第5回 11/9(金) 【研304】 19:00～21:00	○実践プランの評価の仕方 ～実践から見えてきた修正点～ ○グループ報告会 (研修ふりかえりと今後の展望)		・イケダオフィス・ピオ 代表池田茂樹先生
第6回 11/30(金) 【大会議室】 19:00～21:00	○コース発表 ○研修を終えて ○学びの仲間と地域に出よう(仮) 《閉講式》	・研修報告 ・研修総評 ・講演	・コース代表 ・古市勝也教授

4. 講座の実施プログラム

では、具体的に開発した講座プログラムをどのように実施したかを示したい。実施に当たっては、担当者と相互に連携し講座プログラムの「内容・方法」等を事前確認して実施した。毎回の実施に当たっての担当者との細かな協議が大変重要である。また、共催である市長部局の地域共働課も毎回参加し協調関係を深めた点は、当たり前のようなものであるが大事なことであり、認識する必要がある。(表-3～12参照)

表-3:ア. 第1回目:「コアリーダー養成」「アクションリーダー養成」合同

平成19年度古賀市生涯学習リーダー塾 地域づくりリーダー養成講座(開講式) 平成19年8月10日(金) 古賀市中央公民館 大会議室	
1. 開講式	19:00～19:20 (1)開式のことば (2)古賀市教育委員会あいさつ (3)スタッフ紹介 (4)おわりのことば
2. 基調講演	19:20～20:30 「いま地域づくりに求められるもの ～まちづくりの視点～」 地域づくりリーダー養成講座コーディネーター 九州共立大学 古市勝也 教授
3. ポイント講座	20:30～20:40 『古賀市共働のまちづくりについて』 古賀市市民部 市民共働課
4. オリエンテーション	20:40～20:55 (1)講座全体の流れについて (2)コース別説明 ・コーススタッフ紹介 ・研修内容と今後のながれ説明
5. 次回連絡	20:55～21:00 ◎第2回講座 8月24日(金)19:00～21:00
＊次回からコース別に分かれます。 ①コース:コアリーダー養成コース 会場:中央公民館 大会議室 「あなたの地域の診断書づくり～校区の特色と課題～」 ②コース: アクションリーダー養成コース 会場:サンフレア2F会議室 ・「実践プラン作成の視点要点～うまくいくプラン作成法～」 ・グループテーマの決定	

表-4:イー1. 第2回目:コアリーダー養成コース

地域づくりリーダー養成講座(第2回):第2回コアリーダー養成コース 平成19年8月24日(金) 古賀市中央公民館	
1. オリエンテーション	19:00～19:10 (1)コース研修の目的及びながれ (2)コース講師、スタッフの紹介
2. グループ研修	19:10～20:50 (1)他己紹介 ～あなたのお隣さんのことを紹介してください～ (2)講義 『地域課題発見の視点』 講師 古市勝也 先生 (3)グループ協議 ① 地域課題の発見 (KJ法) ② 課題の絞り込み (ダイヤモンドランキング) (4)グループ発表: ～今回研修で取組むテーマの確認～
3. 次回連絡	20:50～21:00 ◎第3回講座 9月14日(金)19:00～21:00
＊次回も引き続きグループ研修です。 ①コース: コアリーダーコース 会場: 中央公民館 大会議室 「校区プランづくり① ～企画から実行計画の作成～」	

表-5：イー2. 第2回目：アクションリーダー養成コース

<p>地域づくりリーダー養成講座(第2回):第2回:アクションリーダー養成コース 平成19年8月24日(金) サンフレアこが2F視聴覚室</p>	
1. オリエンテーション	19:00～19:10
(1)コース研修の目的及びながれ	
(2)コース講師、スタッフの紹介	
2. グループ研修	19:10～20:50
(1)講 話 『実践プラン作成の視点要点 ～うまくいくプラン作成法～』	
コース講師 池田茂樹 先生	
(2)グループテーマ協議 ～講話を踏まえて、今回取り組むテーマの確認～	
(3)グループテーマの発表	
～グループごとに今回取り組むテーマとその内容を発表！～	
3. 次回連絡	20:50～21:00
◎第3回講座 9月14日(金)19:00～21:00	
<p>* 次回も引き続きグループ研修です。</p> <p>②コース: <u>アクションリーダーコース</u> <u>会場:サンフレア2F視聴覚室</u> <u>「実践プランをつくろう① ～広報紙、募集チラシの検証～」</u></p>	

表-8：エー1. 第4回目：コアリーダー養成コース

<p>地域づくりリーダー養成講座(第4回):第4回:コアリーダー養成コース 平成19年10月12日(金) 古賀市中央公民館 大会議室</p>	
1. 本日の研修説明	
(1)企画概要書(前回まで作成)のまとめについて	
(2)企画書(本日作成)の内容について	
2. グループ研修	※企画書の作成作業
(1)企画書の作成	
【資料】・企画書項目シート	
・山口市の企画例とスケジュール	
※別添企画書の項目に添ってグループごとに企画書作成	
(グループごとに任意形式)	
次回連絡:	◎第5回講座 11月9日(金)19:00～21:00
<p>* 次回はグループ研修のまとめです。</p> <p>①コース: <u>コアリーダーコース</u> <u>会場:中央公民館 大会議室</u> <u>「校区プランづくり③、コース研修のまとめ」</u></p>	

表-6：ウー1. 第3回目：コアリーダー養成コース

<p>地域づくりリーダー養成講座(第3回):第3回:コアリーダー養成コース 平成19年9月14日(金) 古賀市中央公民館 大会議室</p>	
1. グループ研修	※前回のつづきから
① <u>企 画</u>	
(1)タイトルの決定、(2)具体策の検討	
(3)期待される効果・目標値の検討	
② <u>企画全容図へ記入</u>	
③ <u>実行計画</u>	
(1)手順・日程・費用・人員、(2)実施上の問題点の検討	
(3)関係者への期待検討	
④ <u>企画全容図へ記入</u>	
2. 次回連絡:	◎第4回講座 10月12日(金)19:00～21:00
<p>* 次回も引き続きグループ研修です。</p> <p>①コース: <u>コアリーダーコース</u> <u>会場:中央公民館 大会議室</u> <u>「校区プランづくり② ～企画書の作成～」</u></p>	

表-9：エー2. 第4回目：コアリーダー養成コース

<p>地域づくりリーダー養成講座(第4回):第4回:アクションリーダー養成コース 平成19年10月12日(金) サンフレアこが2F 視聴覚室</p>	
1. 講義・演習 (前半):(1)広報紙・募集チラシの検証	
～ 企画内容のまとめ方、効果的な発信の仕方について ～	
2. グループ研修 (後半):(1)実践プランをつくろう！(企画内容のまとめ、企画書作成)	
(2)グループ実践計画の発表	
～ グループテーマの実践に向けて、企画内容を発表！～	
※グループ協議の状況、グループテーマによっては経過発表	
3. 次回連絡:	◎第4回講座 11月9日(金)19:00～21:00
<p>* 次回はグループ研修のまとめです。</p> <p>②コース: <u>アクションリーダーコース</u> <u>会場:サンフレア2F視聴覚室</u> <u>「～実践プランの評価の仕方、グループ報告会～」</u></p>	

表-7：ウー2. 第3回目：アクションリーダー養成コース

<p>地域づくりリーダー養成講座(第3回):第3回:アクションリーダー養成コース 平成19年9月14日(金) サンフレアこが2F視聴覚室</p>	
1. グループ協議・発表 :(1)グループテーマ協議	
～ グループごとに今回取り組むテーマとその内容を協議！～	
(2)グループテーマの発表:～ グループテーマと取り組み内容を発表！～	
2. 演習・講義 :(1)実践プランをつくろう！① ～ 広報紙・募集チラシの検証 ～	
3. 次回連絡:	◎第4回講座 10月12日(金)19:00～21:00
<p>* 次回も引き続きグループ研修です。</p> <p>②コース: <u>アクションリーダーコース</u> <u>会場:サンフレア2F視聴覚室</u> <u>「実践プランをつくろう② ～グループ企画作成・発表！～」</u></p>	

表-10：オー1. 第5回目：コアリーダー養成コース

<p>地域づくりリーダー養成講座(第5回):第5回:コアリーダー養成コース 平成19年11月9日(金) 古賀市中央公民館 大会議室</p>	
1. グループ研修	※企画書のまとめ作業
(1)企画書の最終完成	
※グループごとに取組みテーマ・企画書のまとめ作業	
2. コース発表会	※各グループ企画書の発表
(1)グループ発表(各10分程度)	
※発表予定・・・千鳥校区・古賀東校区・花鶴校区	
花見校区・小野校区・古賀西校区	
(2)企画書発表の講評、研修生による意見交換	
3. コース研修まとめ	
(1)コース研修講評	
～本研修手法の振り返りと地域への広がりについて～	
4. 次回連絡:	◎第6回講座 11月30日(金)19:00～21:00
<p>* 次回はよいよ最終回です。</p> <p>①コース: <u>コアリーダーコース</u></p> <p>②コース: <u>アクションリーダーコース</u> <u>会場:中央公民館 大会議室</u> <u>「全体発表会・交流会」、「研修まとめ」、「閉講式」</u></p>	

表-11：オー２．アクションリーダー養成コース

地域づくりリーダー養成講座(第5回):第5回アクションリーダー養成コース 平成19年11月9日(金) サンフレアこが2F視聴覚室	
1. グループ研修 ※企画書のまとめ作業 (1) 企画書の最終完成 ※グループごとに取組みテーマ・企画書のまとめ作業	
2. コース発表会 ※各グループ企画書の発表 (1) グループ発表(各10分程度) (2) 企画書講評、研修生による意見交換	
3. コース研修まとめ (1) コース研修講評 ～企画書づくりの振り返りと地域での実践に向けて～	
4. 次回連絡: ◎第6回講座 11月30日(金)19:00～21:00	
＊次回はよいよ最終回です。 ①コース: コアリーダーコース ②コース: アクションリーダーコース } 会場: 中央公民館 大会議室 「全体発表会・交流会」、「研修まとめ」、「閉講式」	

表-12：カ、第6回目：コアリーダー養成・アクションリーダー養成合同

地域づくりリーダー養成講座(第6回・閉講式): 第6回: コアリーダー養成・アクションリーダー養成合同 平成19年11月30日(金) 古賀市中央公民館 大会議室	
1. 教育長あいさつ 2. グループ研修発表およびテーマ討議 ～各コース代表による研修成果報告と会場全体の意見交換会～ 【1コース】: ①古賀東小校区グループ(矢野毅さん) テーマ『住みよい環境づくり～ゴミゼロをめざそう!～』 ②小野小校区グループ(北崎文隆さん) テーマ『小野校区大運動会!～人と交わり世と睦み合おう!～』 【2コース】: ③松原ネット花見グループ(井上義廣さん) テーマ『古賀花見松原「藤はな」まつり!～地域の宝を使った住民の交流～』 ＊運営スタッフ 【司会コーディネーター】 研修コーディネーター 古市勝也 先生 【コースコメンテーター】 コース指導スタッフ ①コース: 恵良章治先生 ②コース: 池田茂樹先生	
3. 研修のまとめ (1) 講 話 テーマ 『本研修で学んだ成果の活用と地域への広がりについて』 講 師 研修コーディネーター 古市勝也 先生	
4. 閉講式 (1) 開会あいさつ (2) 修了証授与 (3) 教育委員会あいさつ (4) おわりのことば ◎第7回講座は?... みなさんの“地域”が今後の活動ステージです..	
「リーダー塾修了生名簿」に登録しませんか? ※別紙「登録用紙」参照 ～みなさんのことを地域におつなぎします～ (校区・行政区等からの求めに応じて人材情報として提供します。情報提供の内容範囲はみなさんで決定していただけます。登録をお待ちしています)	

表-13：①コース：「コアリーダー養成講座」

No.	グループテーマ	グループ名	資 料
1	住みよい環境づくり ～ゴミゼロをめざそう!～	第1発表 古賀東小校区グループ	
2	小野校区活動の充実 ～小野校区大運動会の開催!～	第2発表 小野小校区グループ	
3	千鳥百年のふるさとづくり ～千鳥まつりと花火大会!～	千鳥小校区グループ	
4	犯罪のない明るいまちづくり ～校区防犯マップを作成しよう!～	花鶴小校区グループ	
※古賀西小校区グループ・花見小校区グループは、上記他校区グループとの合同研修を行いました。			

表-14：②コース：「アクションリーダー養成講座」

No.	グループテーマ	グループ名	資 料
1	住みよい環境づくり ～ゴミゼロをめざそう!～	第1発表 古賀東小校区グループ	
2	小野校区活動の充実 ～小野校区大運動会の開催!～	第2発表 小野小校区グループ	
3	千鳥百年のふるさとづくり ～千鳥まつりと花火大会!～	千鳥小校区グループ	
4	犯罪のない明るいまちづくり ～校区防犯マップを作成しよう!～	花鶴小校区グループ	
※古賀西小校区グループ・花見小校区グループは、上記他校区グループとの合同研修を行いました。			

5. 講座の成果と発表

(1) 平成19年度地域づくりリーダー養成講座発表テーマ

講座の成果として次のような発表テーマが決まり発表した。(表-13～14参照)

(2) 発表内容と考察

ア. 発表内容

演習の成果としてどのような発表内容であったか、「古賀市東小校区グループ」の発表事例（発表1）を挙げる。

(ア) 地域課題・問題点の発見・把握（KJ法によって出された問題点）

1. 環境
 - ・道路や住んでいる周りが汚い、ゴミが散乱している。
 - ・校区内のトンネルに落書きが多い。
 - ・空き缶のポイ捨てが多い。
 - ・幹線道路が狭い
 - ・ペットの糞処理に問題がある。
2. 交通
 - ・住宅地に朝、車が流入してきて危険。
 - ・爆音で深夜バイクが走る。
 - ・交通規制は車優先なのか、歩行者優先なのか分からない。
 - ・車の雑音が大きい。
 - ・路上駐車が多い。
3. 少子高齢化
 - ・子どもの数が少ない。
 - ・若い力が少ない。
 - ・学童の見守りが少ない。
 - ・高齢者の一人暮らしが増えた。
4. 防犯
 - ・道が暗い、照明が無い。
 - ・地域をぶらぶらしている男性がおり危険を感じる。
 - ・少年による自転車盗難や万引き
5. 地域コミュニケーション
 - ・地域行事への参加者が少ない。
 - ・地域の組合加入者の減少
 - ・住民の集いが少ない。
 - ・地域の役に就いている人は忙しい。
 - ・新住民と旧住民との交流不足
 - ・近所の人との会話が少ない。
 - ・リーダーになる人がいない。

↓↓（テーマの絞込み）

(イ) テーマの決定（KJ法）

テーマ「環境問題」を重点的に取り上げることにした。

(ウ) 校区の環境問題の現状（KJ法）

1. ゴミのポイ捨て。 2. 落書き。
3. 犬の糞 4. 国道沿いの草が生い茂っている。
5. 個人宅の庭木が道にはみ出している。

(エ) 問題点解決のための具体策（KJ法）

1. 不法投棄防止策
 - ①不法投棄防止看板の設置。
 - ②パトロール監視。
 - ③発見したら直ちに回収
 - ④薄暗い場所を明るくする。
 - ⑤日常的に環境美化に心がける。
2. 可燃ゴミ回収の改善
 - ①行政に定期的回収時間を要請。
 - ②ゴミ出し場所の設置（アパートなど）
 - ③前日だし禁止の徹底。
 - ④空き缶回収方法の検討（コインとゴミ袋交換など）
 - ⑤小学生とゴミ回収運動を起こす。
3. 美化意識の高揚
 - ①植木の刈り込みを習慣化する。
 - ②ボランティア活動の開始（環境美化隊）
 - ③啓発活動を推進する（通信紙の発行）。
 - ④地域の組織と連携を図る（地域別グループ）

(オ) 環境問題の啓発事業プラン（具体的実践活動計画へ）

1. 事業名：「東小学校校区環境美化校区住民交流会」
2. 日 時：平成20年11月9日 19時～21時
3. 場 所：古賀東小学校体育館
4. 事業概要
 - ・基調講演「地区コミュニティ推進によるまちづくり」
 - ・現状報告「コアリーダー発表」
 - ・意見交換
 - ・まとめ・今後の方向性
5. 参加者：120名（1地区15名×7地区＝105名）、その他15名
6. 費 用：1地区15万円×7地区＝105万円案

*実施上の問題点・配慮点

- ①地域住民が一丸となって協力できるか…
繰返し広報・対話活動が必要
- ②経費の捻出方法。 ③ゴミの処分方法

*** 関係者への期待**

- ①校区住民の連帯感が醸成できる。
- ②自分たちの街は、自分たちで改善していく。
- ③お互い手を取り合って楽しく、安心して暮らせる街づくりができる。

*** 事業効果**

- ①地域の連帯感。 ②安心安全の地域。
- ③知恵・知識の向上。 ④喜びの体感

イ. 考察

(ア) 地域の課題を捉えたテーマになった

この講座の手法と目的からして当然であるが、全グループともに、地域課題の解決がテーマになり、解決プランづくりの方策が計画された。地域づくり人材育成の講座手法として評価できると考える。

(イ) プレゼンテーションの工夫

コアリーダー養成、アクションリーダー養成の両コースから、「ランキング決め（コースごとの発表後の挙手採決）」による代表として3グループが全大会で発表した。

地域に帰り、代表として発表するに当たり準備が整い発表に到った。パワーポイント等を駆使したプレゼンテーションは見事だった。地域にはITに強い人、資料づくりに強い人、発表の上手い人等「得意技」を持った人がいるようである。それを結集するとすばらしいプレゼンテーションになると確信した。

(ウ) 人材は地域にいる…活動への誘い講座が大事

講座の期間中に「持ち込み方式（ポットラック方式）」による情報交換会を実施して分かったことがある。それは、受講者は、企業や団体等の機関で活躍している人、していたOBの人たちであるということである。それらの人から「会社ではこのようなプレゼンテーションは必須でした。久しぶりに楽しかった」「地域活動をどのようにするか分かると、自分の経験を活かすね」という声が聞かれた。すなわち、地域には、企業団体等で揉（も）まれ、学習し、活躍した人たちが多くいることである。そして、大事なものは、そのような人たちは、一旦、地域活動の心がけや手順・手法を学習し「ピンと感じると」能力を発揮するのである。そこで、地域人材育成によって、地域活動への誘いをすることは今こそ重要であると思えてならない。

6. 今後の実践活動への手応え

事業計画の中に、実施日程まで入れて発表までこぎつけた。以下、特にかかわったコアリーダー養成コースを論じたい。

(1) 地区単位による演習グループ編成の効果

地区単位でグループ形成することに拘（こだわ）ったが効果があった。それは、同じ地区なので地域の課題を共通して発見・発掘でき易かった。市町村の段階での人材育成ではこの地区単位によるグループ編成が効果的である。

(2) 地域活動では地域課題の把握が重要性 —「新しい公共」への実践活動へ—

今回の講座で、改めて地区ごとに地域の課題を出してもらって、約90分の演習（KJ法）で30～50項目の課題や問題点が挙げられた。グループによる診断は受講者から「結構課題が有るな」との感想がもたらされるぐらいである。この課題の把握が地域活動の動機になり、我らの地域づくりを「何とかセントいかん」の意識を芽生えさせ、改正教育基本法（平成18年）の「新しい公共の精神」を持って地域活動につながる原動力になるものと思われる。

(3) 人材育成の3段階 —「学び」・「ボランティア活動」・「地域プランづくり」へ—

講座を通して感じたことは、「地域活動者はすぐには生まれない・育たない」「活動への案内・育成の段階が必要である」と言うことである。ここに人材育成講座を行政等で実施する意義・重要性がある。

さらに、活動までは段階を経て活動者に育つと言うことである。それは、受講者の殆んどが、①公民館の「学習講座」等の受講修了者であること、②さらに、地域等で関係役員や地域パトロール隊など地域ボランティアの経験であることである。すなわち、「地区プラン」をつくり地域の人たちを動かし地域づくりをしたい人、何か地域づくりに「アクション」を起こしたい人は、学習し、ボランティアした人たちがさらに活動の輪を広げたい、地域に役立つ行動に結び付けたいと言う人たちである。

(4) 地域の組織（市民団体や行政機関）と組む視点の重要性

さらに、計画を実践に結びつける時に配慮しなければ

ばならない重要なことがある。それは、地域の組織（市民団体や行政機関）と組むということである。また、行政改革で「小さな役所」を目指し、市民が主体のまちづくりを推進するには、「行政と市民との共働」がさらに重要であり、今後、古賀市の「市民共働課」の役割は大きいし、社会教育行政や社会教育関係団体との連携も大事である。すなわち、行政との連携・パートナーシップもさらに重要になってくるのである。

例えば、北九州市の地域福祉ボランティア団体「おとなりさんネットワーク『えん』」（田代久美枝代表）らは、北九州のまちづくりグループとの連携を深めるために市民団体や、行政、市民センターと組んで活動の輪を広げる手法をとっている。組む組織は、「感動ファクトリー」「NPO法人北九州国際自然大学校」「スプラウツ」「NPO法人クリーンワーク」「NPO法人ANGEL WINGS」「創年クラブ」であり、市民センター、区役所のまちづくり推進課である。

おわりに

本事業を振り返ると反省点も多い。本論の文責も反省点もコーディネーターの責任である。反省し、さらに改良を加え実践活動に結びつくプログラム開発に向かっていきたい。恵良章治先生、池田茂樹先生には福岡県社会教育総合センターが実施する「社会教育行政相談」でも、古賀市の事業でもご指導とご助言いただいたことに感謝している。今後、さらに指導を得ながら、今、わが国の市町村が求められている地域活動の人材育成のプログラム開発と実践を継続したい。

参考文献

- 1) 古市勝也、力丸宏昭、村山隆一「『古賀市における地域活性化を目指した地域リーダー養成の開発の実際に関する研究』九州共立大学スポーツ学部研究紀要第1号2007, pp43-54」2007年3月31日
- 2) 古市勝也「地域づくり人材養成は社会教育の手法から」日本教育新聞『週間教育資料』No.957, 2006年10月23日号
- 3) 古市勝也「公民館は、新しい公共活動の学習・活動の拠点」日本教育新聞『週間教育資料』No.1009, 2007年12月17日号
- 4) 古市勝也「改正教育基本法に見る新しい社会教育行政の在り方」『教育の広場』福岡県教育委員会発行, 教育福岡No581, 2007年9月号